

なべぐるのふしぎ

奄美市立屋仁小学校 一年 みなみ こうき

いつもは、おねえちゃんとするちいきのくぼりものを、きようは、ひかるがひとりですることになりました。

ひかるは、いままでひとりで、くぼりものをしたことはありません。だから、

「きもちわるいなあ、ひとりでくぼりものにいくのは。」
「いやそうです。」

なべぐるのやまは、きがたくさんあって、うすぐらいやまです。ひかるはしかたなく、やまにはいっていきましました。やまのいりぐちには、ちいさなかわがながれていました。

そのなかに、きんいろのひかる、なにかをみつけました。かわのなかにはいつて、てでつかまえると、きやんぷのときにみつけた、いしかわがえるでした。

「やった。いしかわがえるだ。」
とひかるは、つれてかえることにしました。

みちにもどろうとすると、きのうえで「ぎやあ、ぎやあ。」とこえがするので、みあげると、ちやいろで、おとなぐらいのおおききのとりがいます。さしばです。そのさしばが、とつぜんひかるにむかってとびかかってき

ました。

「わあ。」

とひかるは、びつくりして、かえるをもったてを、はなしてしまいました。それとどうじに、くぼりものを、かわのながれこんでいるしたのあなにおとしてしまいました。

「まずい、おかあさんにおこられる。」

すこしこわかったけど、おこられるのもいやなので、ひかるはとりにいくことにしました。

ひかるは、あなのなかにはいりました。そのあなは、まっくらで、なにもみえません。したをさわってみると、かさつと、かみにふれました。そのかみは、くぼりもののかみだったはずなのに、ちずがかかっているかみになつています。そのかみといっしょに、すこしあたたかい、ぺたぺたしたものをつかみました。

「おれのたからものにさわるな。」
ひかるが、つかんだものは、はぶだったのです。

おそろしくて、ひかるは、はしりだしました。いっしょうけんめいはしったけど、すぐはぶにおいつかれてしまいました。

「なんで、おまえは、こんなきけんなところにいるんだ。」

とはぶはいいました。

「おねえちゃんが、おなかがいなくて、いっしょにくばりものにこれなかつたんだ。」

「それはかわいそうに。ちょうど、おまえのもつかみは、わしもびょうきでいこうとしていた、いのちのみずうみのちずなのだ。みずをのめば、びょうきがなおるといわれている。」

ひかるは、かわいそうにおもいました。でも、もりのなかにはいるのはこわいです。とてもまよいましたが、ゆうきをだして、はぶのいえまでいっしょについていくことにきめました。そして、

「ぼくが、かわりにみずうみをさがしにいつてくるよ。」
といました。

ひかるは、ちずをかたてにみずうみをさがしました。なべぐるやまは、いえが六けんぐらいあり、ひとよりおおきなきがいっぱいあります。いぬや、るりかけすもいる、しぜんがいっぱいのやまを、ひかるは、あるきまわりました。

ゆうがたになるころに、やつとみずうみをみつけました。きにかこまれて、こけがはえたみずうみには、一匹きのいしかわがえるがいました。

「やつとみつけた。かえるさん、ここはいのちのみずうみですか。なべぐるでびょうきになったはぶさんと、おなかがいいたいぼくのおねえちゃんにいのちのみず

をのませてげんきにしてあげたいの。」

かえるはなにもいいません。

「さつきかえるさんをいえにつれてかえろうとしてごめんね。」

かえるは、なにもいわずにぼつちやんとみずうみのなかにいると、はつばでつくったこつぶにみずをいれてひかるにわたしました。

「ありがとう。」

ひかるは、いそいできたみちをかえり、はぶにみずをのませました。はぶは、げんきになって、

「ありがとう。おかげで、げんきになったよ。もう、にんげんをおそわないよ。」
といました。

ちずをみると、いつのまにか、ちずのかみが、くばりもののかみにもどっていました。

ひかるは、もう、なべぐるのやまがこわくありません。ひとりで、なべぐるのちいきにすむ、おじいちゃんやおばあちゃんにくばりものをしてきました。

ゆうひがしずむころ、いえにつきました。

「おねえちゃん、ちゃんとくばりものおわたしたよ。げんきになるみずあげる。」